

大ホールの改修完了まで、あと少し!!

客席エリアの改修状況と現在の様子についてご報告します!!

改修前



天井の解体、壁の壁のたため客席エリアに足場を設置、/令和2年8月頃



天井を建設後、足場を解体、/令和3年8月



席や座席を撤去、/令和2年8月頃

【改修】

●客席の下から効率よく届く空調方式に変更することで、快適さと省エネルギー化を両立します。

【座席】

●ゆとりある座席幅にし、ゆったりと舞台を鑑賞していただけます。
●前後の座席をずらすに設置することで、前席のお客様と被らずに舞台鑑賞ができます。
●客席後方からの舞台のやすさを改善し、より良い鑑賞環境を実現します。
●座席デザインは新国立劇場と同様、3色のモザイク状とすることで客席の賑わいを演出します。



床面を整え、新しい座席を設置、/令和3年8月

【壁面】

●暖色系の木質感を組み合わせることで、落ち着いた温かみのある内装にします。
●壁面の反射音を改善し、生演奏の響きの良さに加え、台詞が聞き取りやすくなるなどバランスの取れた音響空間になります。

反射板は、直接客席に届く音を補強する大切な役割があります。舞台上で発生させた音の大さきや明暗さを確保するには、壁面や天井の形状が大事!

【天井】

●大地へへの安全対策等のため既存天井を撤去しました。
●天井にも反射板を新たに設置することで、舞台の音を客席に届きやすくします。

【バリアフリー対応】

●車いす席数は従来の2倍以上に増加します。客席の後方部分に加え、新しく中央部分にも設置します。
●多目的ルームは、より舞台の近くに配置したほか、車いすの方でも利用しやすく改善します。
●手すりや手かかを整備するほか、立ち座りや移動のしやすい形状に客席を改善します。



バルテノン多摩では、
公演や展示会等の文化芸術活動を通じて、
多くの市民の皆様と暮らしていただけるような
魅力的な事業等の企画を募集します。

これまで多くの市民団体等が、バルテノン多摩を舞台に様々な文化、芸術に関連する事業を行ってきました。令和5年度からは、多摩市内を主な活動拠点とする様々なジャンルの団体にもスポットをあてていきます。
今後、バルテノン多摩でその成果を発表することで、市民や文化芸術に関心がある方々と一緒に鑑賞、鑑識しながら、市民団体等による活動の魅力を広めていきます。

希望する団体は、以下の事項及び、バルテノン多摩ホームページで内容をご確認のうえ、必要書類等を期限までにご提出ください。多くの団体が主体的に実施する素晴らしい企画をお待ちしています。

【条件等】

- 主な対象条件: ①多摩市内に拠点を持つ文化芸術活動団体
②広く一般市民等が文化芸術に触れる機会を提供できる内容であること、その他の条件等を満たすこと
- 実施期間: 令和5年(2023年)4月1日～令和6年(2024年)3月31日
- 実施場所: 原則としてバルテノン多摩内
- 採用事業への支援:
①令和5年度内の先行予約(実施日は別途調整)
②その他
- 応募方法: 10/15(金)～11/15(月)の間にバルテノン多摩ホームページより「募集要項」をダウンロードし、記入後、郵送または持参
【郵送】7206-0034 多摩市教育1-24-1 新都市センタービル501号室
バルテノン多摩共同事業「令和5年度公募事業要綱」別
【持参】9:00～17:00 土日祝日除く(時間厳守)

【お問い合わせ】令和5年度公募事業担当
電話:042-375-1414(9:00～17:00 土日祝日除く)
詳細はバルテノン多摩ホームページをご覧ください。

新しいバルテノン多摩の ココが変わる

事業課

充実したラインナップとともに、
市民の皆さんと一緒に感動し、
楽しく、学べる事業を行います!

バルテノン多摩で催される事業を手がけるのが、多摩市文化振興財団の事業課です。演劇やコンサートなどの主催事業のプロデュースから、様々なアーティスト・団体との共催・提携まで、バルテノン多摩の舞台芸術の要を担っているのは、10人のスタッフです。

来年7月に迫ったグランドオープンに向け、様々なジャンルの公演から、子どもも参加できる作品、市内の文化芸術団体、学校が行う発表会など、毎日でも来たるような展開を企画しスタッフ全員でご待ちしています。お楽しみに!

休館中の現在も、地域で様々な活動を行っています。子どもたちを対象としたもの、大人も共に学んだり、テーマ別の個性のある講座事業を行う一などなど、ご好評をいただける活動を展開しています。
右下の写真は、アウトリーチ活動の一コマ、新型コロナウイルス感染症予防対策とつながり、地域にお住まいの方々と一緒に考え、作り上げたい取り組みも行っています。



学芸員紹介



瑞嶋万里子

元々は日本舞踊を専門としていたが、近年は、多摩ニュータウンをはじめ、広く多摩市の歴史や暮らしなどの調査を行っています。学生さんにも博物館のことや、歴史調査の方法などをお伝えしたいです。

館長 後

植物などの生き物と多摩にくらす人々とを関係するテーマに調査しています。また、生き物って面白いんだ、と思ってもらえるような、小学生や公民館に出向いて、お話を伺いながらしています。



ミュージアムのどこが変わる?

博物館で、地域を見つめる眼差しを手に入れたら、誰や理由がたぶん思いついてくる。同じ関心で行くことで、それまでと違う地域の再発見ができるかもしれない。それが「地域ごと博物館」です。

「地域ごと博物館」が機能するためには、地域のさまざまなものをつなげていくことが必要です。新しい博物館では、それをつなげる人として、「市民学芸員」を新たに迎え、一緒に博物館づくりをおこなう。地域をつなげる存在となっていくことにしました。新しい博物館では市民学芸員の新たな視点による多様な企画をご期待ください。

新しいミュージアムには、多摩市と市民が一緒に作る計画。新しい博物館では、それをつなげる人として、「市民学芸員」を新たに迎え、一緒に博物館づくりをおこなう。地域をつなげる存在となっていくことにしました。新しい博物館では市民学芸員の新たな視点による多様な企画をご期待ください。